



冬のオススメ本紹介

YA担当より

冬は、クリスマスにお正月など、イベントが目白押しで忙しい季節ですが、寒い冬はお家の中でまったり読書、なんて過ごし方にぴったりなおすすめの本を紹介します。

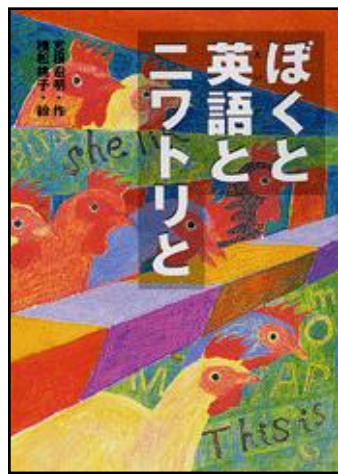
1、「ほくと英語とニワトリと」

宮根 宏明 / 作

横松 桃子 / 絵

PHP 研究所

児童913ミ



養鶏農家の息子・辻洋介は、町の中学に入学して以来、なぜか勉強についていけなくなってしまいます。

楽しみにしていた初めての英語も、あっという間に分からなくなり、いつの間にかクラスの落ちこぼれに。

ある時、おとなしいと思っていた女の子から、なんと、自分に勉強を教えてもらえるようになり…。

毎日の鶏の世話だけでなく、壁にぶつかっても

とにかくがむしゃらに勉強に取り組むことにした洋介

気分が晴れない毎日から、投げ出してきたことにも再び向き合い、希望をつかむ物語。

2、「ガール・イン・レッド」

ロベルト・イン/チェンティ / 原案・絵

アーロン・フリッシュ / 文

西村書店

児童Eイ



コンクリートとレンガで出来た森にすむ少女ソフィアはひとり暮らしのおばあさんのもとへ森の反対側へと出かけますが…。そこで出会う

のは、色鮮やかな大都会、^{けんそう}喧噪、様々な誘惑。そして、ジャッカルやオオカミにも似た危険な者たち。

ソフィアは無事におばあさんと会うことはできるのでしょうか？リアルで色鮮やかなイラストレーションで描かれる、現代版あかずきん。

3、「フクロウはだれの名を呼ぶ」

ジーン・クレイグヘッド・ジョージ / 著

千葉茂樹 / 訳

あすなろ書房

児童933ジ



アメリカ政府は絶滅に瀕するマダラフクロウの保護を決め、原生林の伐採を禁じた。そのためポードンの父は失業してしまう。ポードンはフクロウをを憎み、ライフルをもって森に入るが巣から落ちたフクロウのひなを連れて帰るハメに…。

「殺しちまえ！」とフクロウを憎む父が次第に家族の誰よりも可愛がっていく姿が微笑ましい。

一羽のフクロウを通し、自然破壊という重いテーマをさりげなく読者に語りかけてくれます。

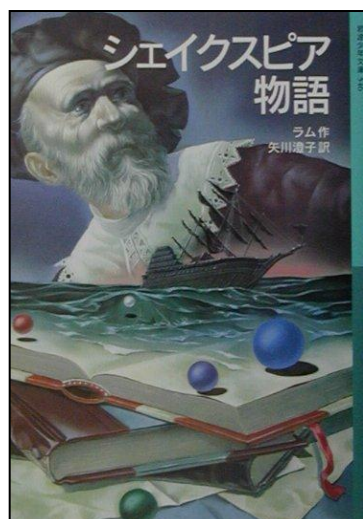
4、「シェイクスピア物語」

チャールズ・ラム / 作
メアリ・ラム / 作

矢川 澄子 / 訳

岩波書店

児童932シ



「ロミオとジュリエット」や「ハムレット」など、数多くの舞台や映画化されたシェイクスピア作品。タイトルを耳にしたことがある方も多いのではないのでしょうか。

上演するために書かれた戯曲^{ぎきょく}をラム姉弟が書き下ろした作品集。人間の姿を鋭くとらえたシェイクスピアの世界を見てみませんか？読みやすく物語化された喜劇と悲劇の名作11編。